

製品安全データシート

Benzaldehyde

作成 : 2013/10/23
改訂 : 2022/11/21

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称 Benzaldehyde (ベンズアルデヒド)
会社名 Valtris Advanced Organics Belgium NV
住所 Heilig Hartlaan 21, BE-3980 Tessenderlo Belgium
担当部署
担当者(作成者)
電話番号 +32(0)13612300
FAX番号 sds.responsible@ineos.com
メールアドレス +32(0)14584545
緊急連絡先番号

販売代理店 サンケミカル株式会社
住所 東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
電話番号 03-3661-6681
FAX 03-3661-7055
メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp
HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意

化学品中間体、化粧品製剤、獣医薬中間体、医薬中間体
食品添加剤、飼料添加剤、香料香水製剤

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類 Regulation EC No 1272/2008 による分類

物理化学的危険性:

健康に対する有害性:

急性毒性(経口)	区分4	H332
急性毒性(吸入)	区分4	H302
皮膚腐食性・刺激性	区分2	H315
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分2	H319
生殖毒性	区分1B	H360
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分3	H335

環境に対する有害性:

水生環境有害性 長期(慢性) 区分2 H411

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素

● 絵表示又はシンボル



● 注意喚起語

危険

● 危険有害性情報

H360D	胎児に影響を与えるおそれ
H332	吸い込むと有害
H302	飲み込むと有害
H315	皮膚に刺激を引き起こす
H319	眼に深刻な刺激がある
H335	呼吸器への刺激のおそれ
H411	水生環境に長期にわたる影響がある

● 注意書き

【安全対策(項目7と8)、救急措置(項目4)、取扱い及び保管(項目7)、破棄(項目13)】

P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P304 + P340	吸入した場合:新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P302 + P352	皮膚に付いた場合、多量の水で洗い流すこと。
P305 + P351+P338	眼に入った場合:多量の水で洗うこと。コンタクトレンズを外して、目を洗うこと。
P308 + P313	暴露した場合、医師の診断を受けること。
P312	気分が悪い時は医師に連絡すること。

応急措置	いずれの場合も医師の診断を受けること。
吸引した場合	新鮮な空気の場所に移動する。
皮膚に付着した場合	製品を肌からふき取る。直ぐに十分な水で洗浄すること 刺激が続く場合、医師の診断を受けること。
眼に入った場合	十分な水で15分間、眼を洗う。 違和感が続く場合、医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	口をゆすぐ。飲み込んで直ぐ:大量の飲み水を与える。 気分が優れない場合、医師の診断を受ける。

取扱い及び保管

裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけない事。
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
粒子状になる場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
発火源を近づけない事。20℃でガスと蒸気が空気よりも重くなる。

衛生基準を遵守する事。容器は密閉する事。
汚染された衣類は直ぐに脱ぐ事。廃棄物を下水に流さないこと。

涼しく、乾燥した20℃の場所で保管する事。フロア全体の換気が行えること。
防火用天井。漏出液を回収できるタブ。部屋は鍵付きである事。
関係者以外立ち入り禁止にする事。
元々の容器にのみ入れて保管する事。安定した状態で保管する事。
法基準を満たす事。

近づけてはいけない物(熱源、酸化剤、金属、可燃物、水、湿気)

廃棄

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って
危険有害性のレベルを低い状態にする。
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物業者に業務委託する事。

項目3 組成及び成分情報	
化学物質・混合物の区別	単一化合物
化学名又は一般名	ベンズアルデヒド
慣用名・別名	ベンズアルデヒド (Benzaldehyde)、ベンゼンカルボナル (Benzenecarbonal)
化学物質を特定できる一般的な番号	
CAS番号	100-52-7
成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)	99.9%
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	3-1142
GHS分類に寄与する成分	

名前(REACH登録番号)	CAS	EC番号	MITI番号	成分	備考
Benzaldehyde(01-2119455540-44)	100-52-7	202-860-4	3-1142	99.9%	成分

▲ 項目4 応急処置

一般事項

意識を失った場合、十分な空気を呼吸器に送り込む事。
呼吸が止まった場合、人工呼吸を施す。もしくは、酸素を与える。
心肺が停止した際、蘇生措置を施す。
呼吸困難の際、中腰になる。
ショック状態、あお向けになる。
嘔吐時、窒息状態を防ぐこと。異物が肺器官に入らないようにする事。

患者の身体が冷えないように毛布等を掛ける事。患者から目を離さない事。
患者の精神が沈まないように励ます事。身体を休ませて、身体的負担を避ける。
患者の状態によって、医師の診断を受ける。
決してアルコールを与えない事。

吸入した場合 新鮮な空気の場所に移動する。肺器官に問題がある時は医師の診断を受ける事。

皮膚に付着した場合	製品を肌からふき取る。直ぐに十分な水で洗浄する事。 刺激が続くようであれば、 医師の診断を受けること。
眼に入った場合	十分な水で15分間、眼を洗う。 中和剤を使用してはならない。眼科医の診断を受ける事。
飲み込んだ場合	口をゆすぐ。飲み込んで直ぐに大量の飲み水を与える。 気分が優れない場合、医師の診断を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11-有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護

医師に対する特別な注意事項

吸引後

高濃度曝露:呼吸器官の刺激。鼻の粘膜に刺激。喉の乾燥又は痛み。
中枢神経系の抑制。吐き気。嘔吐。頭痛。昏睡状態。呼吸困難。痙攣。筋肉の収縮。

皮膚に付着した後 皮膚の刺激。

眼に入った後 眼の組織の刺激。眼の赤み。

飲み込んだ後 誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)
(=本来気管に入ってはいけない物が気管に入り(ごえん)
その為に生じる肺炎)
高濃度で曝露をすると、中枢神経の抑制。
吸引後と同様の症状が起きる。

毒劇物の場合、解毒剤 非該当

項目5 火災時の措置
職場のあんぜんサイトから引用

消火剤 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤 棒状放水、水噴霧(水噴霧はINEOSのオリジナルのMSDSでは推奨消火剤ですが、
日本では消防法の規制の為、水噴霧での消火方法は推奨出来ません。)

火災時の措置に関する
特有の危険有害性 燃焼一酸化炭素と二酸化炭素を発生させる。
熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
下水溝に流れ込むと火災、爆発の危険がある。
63°C以上では、蒸気、空気の爆発性混合気体を生じることがある。
冷やした後、爆発の危険性がある。
アルミニウム、塩基、鉄、酸化剤、フェノールと激しく反応し、火災や爆
発の危険をもたらす。
特定の条件下で爆発性過酸化物を生成することがある。

特有の消火方法 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護 手袋、顔防具、腐食耐性の服を着用すること。
密室で大量に漏れた場合、空気呼吸器を使用する事。
熱や火に近づく際、酸素呼吸器を使用する事。

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 裸火を近づけない事。腐食耐性の器具を使用する事。容器を密閉する事。
大量/密室で漏れた場合、避難方法を考慮する事。
汚染場所から離れる事。関係のない人を避難させること。換気をする事。
項目8を参照ください。

手袋、顔の保護具、密室での漏出時、酸素呼吸器を着用すること。
適切な保護具は項目8を参照下さい。

環境に対する注意事項	漏出物を適切な容器に入れる。漏出液を塞いで、漏れを止める。 土壌と水を汚さないようにする。 下水に流れないようにする。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	非可燃性の容器に、液体を集めて入れる。 土、砂、ひる石、けいそう土等。吸い取った後に密閉容器に入れる。 汚染された場所は水で清潔にしておくこと。 集めた漏出物は製品製造メーカーに持って行くか、自治体の認可を受けた廃棄物業者に依頼して処理する。作業後は必ず手と衣類を洗う事。 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策 (局所排気、全体換気)	フロア全体の換気
安全取扱注意事項 接触回避	裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけない事。 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。 粒子状になる場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。 発火源を近づけない事。20℃でガスと蒸気が空気よりも重くなる。 使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 眼との接触を避けること。 皮膚との接触を避けること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
衛生対策	衛生基準を遵守する事。容器は密閉する事。 汚染された衣類は直ぐに脱ぐ事。廃棄物を下水に流さないこと。 「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	
安全な保管条件	涼しく、乾燥した20℃の場所で保管する事。フロア全体の換気が行えること。 防火用天井。漏出液を回収できるタフ。部屋は鍵付きである事。 関係者以外立ち入り禁止にする事。 元々の容器にのみ入れて保管する事。安定した状態で保管する事。 法基準を満たす事。 施錠して保管すること。
近づけてはいけないもの	熱源、酸化剤、金属、可燃物、水、湿気、火災、静電気
安全な保管保管包装材料	ガラス、ポリエチレン、スズ、ステンレススチール、プラスチックスチール
不適切な容器	アルミニウム、鉄、銅、青銅

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等	日本産業衛生学会(2007年版) ACGIH(2007年)	未設定 未設定
DNEL 導出無毒性量 /DMEL 導出最小毒性量		職場の労働者
長期全身性影響吸引		9.8mg/m ³
長期局所影響吸引		9.8mg/m ³
長期全身性影響経皮		1.14mg/kg
急性局所影響吸引		1%
DNEL 導出無毒性量 /DMEL 導出最小毒性量		一般人
長期全身性影響吸引		4.9mg/m ³
長期局所影響吸引		4.9mg/m ³
長期全身性影響経皮		0.67mg/kg
急性局所影響吸引		1%
長期全体性影響経口		0.67mg/kg

PNEC 予想無影響濃度	
淡水	0mg/L
海水	0mg/L
淡水(断続的放出)	0.011mg/L
STP	7.59mg/L
淡水堆積物	0.004mg/kg sediment dw
海水堆積物	0 mg/kg sediment dw
土壌	0.001 mg/kg soil dw

設備対策
 裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけない事。
 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
 粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
 呼吸器官を保護、もしくは局所、全体換気の管理で作業を行う事。
 厳格な衛生管理の下で作業し、容器は密閉し、作業中の飲食と喫煙は避ける事。

保護具	
呼吸用保護具	高濃度のガス、蒸気にはガスマスクを着用する事。
手の保護具	ブチルゴム製 8時間以上の使用に耐える物。厚さ0.30mm フッ素ゴム製 8時間以上の使用に耐える物。厚さ0.70mm
眼の保護具	ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	適切な保護具を身に着ける事。

特別な注意事項
 環境曝露については項目6と13を参照ください。

項目9 物理的及び化学的性質

物理的状態	液体
色	無色又は黄色
臭い	アーモンド臭
融点・凝固点	-26°C; 1013hPa
沸点又は初留点及び沸騰範囲	179°C; 1013hPa
可燃性	可燃性とは分類されていない。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	1.4-8.5 vol %
引火点	62°C; 1atm
自然発火点	192°C; 1013 hPa
分解温度	データなし
pH	5.9; 0.1%
動粘性率	1321 Pa.s; 25°C 1.1 mPa.s; 40°C
溶解度	水 0.695g/100ml; 25°C エタノール 完全溶解 エーテル 完全溶解
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	1.4(25°C)
蒸気圧	1.3hPa; 20°C 7.3hPa; 50°C
密度及び/又は相対密度	1.042(20°C)
相対ガス密度	3.66
粒子特性	
その他のデータ	空気に触れると黄色くなる。
表面張力	0.0705 N/m ; 20°C
相対密度 飽和蒸気/空気混合	1
臨界温度	352°C
臨界圧力	21780 hPa
飽和濃度	3.5 g/m3
解離定数	14.9 ; pKa
絶対密度	1050 kg/m3

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	引火点以上の場合、可燃性と爆発性の危険がある。 高温になると、重合安定が不安定になる。
化学的安定性	光に不安定、空気に不安定
危険有害反応可能性	空気に触れると、発火や爆発の恐れのある過酸化物質を発生する。 この反応は光で加速する。粒子状の際、発火や爆発のおそれのある熱を発生する。 有機物質に反応する。多くの化合物に強く反応する。

63℃以上では、蒸気、空気の爆発性混合気体を生じることがある。
アルミニウム、塩基、鉄、酸化剤、フェノールと激しく反応し、
火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件
(静電放電、衝撃、振動など)

裸火、熱に近づけない事。
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用し、発火源を近づけない事。

混触危険物質

可燃物、酸化剤、還元剤、強塩基、アルミニウム、鉄、銅、青銅
フェノール

危険有害な分解生成物
その他

可燃性の一酸化炭素と二酸化炭素をつくる。
特定の条件下で爆発性過酸化物を生成することがある。

★ 項目11 有害情報

急性毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体	雌雄	値の決定
経口	LD50	OECD401と同等	1430 mg/kg bw		ラット	オス	実験値
けい皮 とエアゾール の混合物)	LD50		> 2000mg/kg bw	24h	ウサギ	オスメス	読み取り法
	LC50	OECD436	1 mg/l air - 5mg/l air	4h	ラット	オスメス	実験値

吸い込むと有害
飲み込むと有害
皮膚の接触で急性毒性としては分類されない

皮膚腐食性/皮膚刺激性

曝露経路	結果	方法	曝露時間	時点	被検体	値の決定	備考
眼	刺激	OECD405 同等		24:48:72H	ラビット	実験値	一回処理
眼	目刺激区分2					別紙6	
皮膚	わずかに刺激あり		24H	24:48:72 h	ラビット		周囲温度 追記
吸引	刺激 単回暴露 区分3					別紙6	

眼に深刻な刺激を与える
呼吸器に深刻な刺激を与える
特定臓器毒性、単回曝露:呼吸気管に刺激がある
皮膚に刺激を与える。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

呼吸器感受性又は皮膚感受性

曝露経路	結果	方法	曝露時間	観察時点	被検体	値の決定
皮膚	感受性無し	OECD 406			モルモット	証拠の重み
吸引	感受性無し				モルモット	証拠の重み

皮膚に感受性はない
吸引による感受性はない

特定標的臓器毒性、単回曝露、反復曝露

曝露経路	基準	方法	値	臓器	効果	曝露時間	被検体	値の決定
経口(胃管)	NOAEL		400mg/kg		無し			
経皮								
吸引(蒸気)	LOAEC	OECD 412と同等	500ppm		神経効果			

NOAEL=無有害作用量
NOAEC=無毒性量
LOAEC=最小毒性濃度
亜急性毒性に分類されない

生殖細胞変異原性 in vitro 試験管内

結果	方法	曝露時間	試験基板	雌雄	臓器	値の決定
代謝活性で陰性、代謝活性無しで陰性	OECD478		ヒトリンパ球			実験値
代謝活性で陰性、代謝活性無しで陰性	OECD471と同等		バクテリア(サルモネラ菌)			実験値
代謝活性で陰性、代謝活性無しで陰性	OECD473と同等		中国ハムスター卵巣細胞			実験値

生殖細胞変異原性 in vivo 生体内

結果	test (ゲノム変異)	曝露時間	試験基板	雌雄	臓器	値の決定
陰性(経口)	異)		ジョウバエ(雄)			実験値

発がん性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体雌雄	値の決定	臓器	効果
経口	LOAEL	OECD 451と同様	>300mg/kg bw	103週間(週5日計測)~104週(週5日計測)	マウス オスメス	実験値	胃	発がん性

発がんに分類されない

生殖毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体雌雄	効果	臓器	値の決定
発生毒性	NOAEL	OECD 414	600mg/kg bw/day		ラット	明確な異常	眼	
出産の影響	NOAEL	OECD 414と同様	1306mg/kg bw/day	21日(消化、日々)	ラット	無し		
生殖能力への影響(経口(胃チューブ))	NOAEL		5mg/kg bw/day	32週	ラット	無し		
授乳の影響	NOAEL							

NOAEL 無毒性量

胎児に影響をを与えるおそれ

その他

連続して、または長期に渡り繰り返し曝露し続けると、皮膚発疹、炎症、皮膚の赤み、腫れ、かゆみが起きる。

誤嚥有害性

その他

連続して、または長期に渡り繰り返し曝露し続けると、皮膚発疹、炎症、皮膚の赤み、腫れ、かゆみが起きる。

項目12 環境毒性情報

生態毒性

	基準	方法	値	期間	被検体	試験設計	真水/淡水	値の決定
急性毒性魚	LC50	OECD 203 と同	12.4mg/L	96時間	ファットヘッド ミノー	flow through system	真水	実験値
急性毒性無脊椎動物	EC50	OECD 202	19.7mg/L	48時間	大ミジンコ	準静的システム		予測値
毒性藻、水生動物	ErC50 EC10	OECD 201	33.1mg/L 0.0205 mg/l	72時間	藻 ムレミカ ツキモ	静的システム		予測値 研究
長期毒性魚	NOEC		0.12mg/l ~ 0.22mg/l	7日	ファットヘッド ミノー	flow through system		実験値
長期毒性無脊椎動物								データ放棄
水生微生物毒性	TLm		800 mg/l	24時間	バクテリア			
水生微生物毒性	LC50	OECD 209	759.3mg/L	3時間	微生物	静的システム	淡水	実験値:通常 の濃度

長期的に水生環境に影響を与える

残留性・分解性

生体分解 水

方法	値	期間	値の決定
OECD 301B CO2 Evolution テスト	>95%	28日	実験値

空気中の光変換 DT50

方法	値	結果。OHラジカ	値の決定
	9.4H	1.7E-6/cm3	実験値

容易に水中で分解出来る
容易に土中で分解出来る

生態蓄積性

Log Kow

方法	備考	値	温度	被検体	値の決定
OECD117		134	25°C		実験値

土壤中の移動性

揮発性 (ヘンリーローの法則)

基準	方法	温度	値	値の決定
Log Koc	SRC PCKOCWIN v2	25°C	1.045-1.514	計算値

土壤中で移動する

オゾン層への有害性

データ無し

他の有害影響

PBT vPvBの評価

基準を満たさない。

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物業者に業務委託する事。

蒸留してリサイクルする事。

エネルギー再使用で、塩素廃棄物を焼却炉から取りだす。
法規制に従い、廃棄物を取り除く。有害廃棄物質は他の廃棄物質と混ぜないこと。
混ぜる事によって、有害物質が発生するか、今後の廃棄物運営で問題になる場合、異なる種類の有害廃棄物質は混ぜるべきではない。

廃棄物は責任を持って処理すること。
有害品を在庫、輸送する際、人と環境に害を与えないように、必要な措置を行う義務があります。
処理施設に排出する前に、権威ある組織の許可を得る事。下水道に流さない事。

廃棄物質容器コード (Directive 2008/98/EC)
07 01 10 (packaging containing residue of contaminated by dangerous substances)

項目14 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	1990
品名(国連輸送名)	benzaldehyde
国連分類	
ハザード特定番号	90
(輸送における危険有害性クラス)	9
分類コード	M11
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
(該当・非該当)	
MARPOL73/78附属書II及び	
IBCコードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
(該当・非該当)	
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	
国内規制がある場合の規制情報	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、 荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。
応急措置指針番号	非該当
その他	
IMDG(国際海上輸送規定)	
特別規定	
重量数量	組み合わせ梱包時、液体用容器で5リッター以上の配送禁止 容器は総量で30kgを超えてはならない。
ANNEX II of MARPOL 73/78	適用しない
ICAO-TI/IATA-DGR(国際航空輸送/危険物規則)	
NET重量制限	30kg G

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化管法
安衛法

第2条第1種指定化学物質 1-399。2023年4月から1-451に変更。
変異原性が認められた既存化学物質
(法第57条の5、労働基準局長通達)(政令番号:115)
危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)(政令番号:4の4)

2022年3月 通知表示対象 非該当
2025年4月 通知表示対象 該当

毒劇法

非該当

高压ガス保安法
消防法

該当なし
第2条危険物第4類第2石油類非水溶性(液体1,000L)

船舶安全法
航空法
外為法

危険則第2条危険物等級9有害性物質
施行規則第194条危険物毒物(S等級3)
輸出令別表第2の35の2項(0.1%重量%以上含む廃棄物)
キャッチオール規制

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

ベンズアルデヒド Valtris Advanced Organics SDS 2022年9月14日

職場のあんぜんサイト ベンズアルデヒド SDS
16716の化学品 化学工業日報 2016年

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用性を対象としたものではありません。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

2019年改正 JIS Z7252/Z7253

★
●
▲

リスクアセスメント必須事項
ラベルに記載する情報
安衛法ラベルの注意書きの項目
(但し、ラベルに全て載せる必要はない)